

好酸球増多を伴う複数の血腫を呈した黒毛和種子牛

丹後家畜保健衛生所  
○田中義信 川島康成

【はじめに】和牛繁殖農場（30頭飼養）において抗生物質の連用投与後、複数の血腫を呈した黒毛和種子牛について報告する。【材料及び方法】子牛（6か月齢）が左下腿部を打撲し腫脹したためペニシリンを投与（0病日）、翌日に発熱、腫脹と熱感が臀部まで拡大した。以後、細菌感染を疑い抗生物質投与の治療を継続したところ血尿、左眼底出血、筋肉注射部位（両側頸部と右腰角部）の腫脹、47病日には各腫脹部の疼痛顕著、眼球蒼白（貧血）を呈した。血液一般及び生化学検査を実施し、予後不良と判断、鑑定殺後、病理解剖を実施した。【結果】血液検査所見：白血球数  $10,400/\mu\text{l}$ 、Ht 16.7%、血小板数  $10,000/\mu\text{l}$ 、好酸球比 15.5%（濃染顆粒と空胞を含むもの 69.8%）、GOT 95U/L。病理解剖所見：腫脹部は拳大血腫と周囲の膠様変性、脾萎縮、リンパ節の出血と膠様変性を認めた。病理組織学的所見：血腫周辺部位、リンパ節、脾臓に好酸球の浸潤、血腫中心部に肥満細胞の浸潤を認めた。【考察】本症例は血腫、発熱、貧血、血尿、眼底出血、血小板減少、白血球数及び好酸球比の増加、肝機能低下を呈したため、薬剤過敏症及び薬剤性血小板減少症が疑われる。今後、血腫、浮腫、流産等の副作用歴のある個体を含む牛群については濃染顆粒と空胞を含む好酸球の存在と薬剤高感受性の関連性を調査集積する必要がある。